

FM NACK5 高校生海外スポーツ研修プログラム

オーストラリア ゴールドコースト 横田晴香

私が一番感じた異文化は、部屋でもどこでも靴でいること。高校の敷地、教室、体育館、ホテル、スポーツスーパーセンター内と、日本だったら靴を脱ぐ場所に靴で入ることに、とても戸惑いを感じた。全ての場所が日本のアウトレットのように思えた。私は無意識のうちに靴をホテルやロジックの中で脱いでいて、気が付くと靴下で歩いていた。靴を脱がない文化は足が疲れて、1週間でも慣れなかった。



お店に囲まれている通りは昼より夜の方が、人が多くにぎわっていた。パフォーマーを大勢の人が囲んでみんなで盛り上がっているのを見て、町の一体化を感じた。

オーストラリアは冬でも日本の夏より強い日差しで、1日中乾燥していて朝晩はとても冷え込んだ。経験したことのない気候だったが、汗がすぐひいて過ごしやすかった。日差しが強いからこそ、海がとてもキラキラ光っているのかなと思った。自然にいる鳥は見る鳥すべて見たことがなく、種類や色は日本とは全く違っていた。鳴き声は、聞いたことがなく、面白かった。

私が現地で驚いたことは、ホテルや、センター、高校などに、時計が1つも見当たらなかったこと。毎日時間に追われず、ゆったりと生活をしているかと思うととても羨ましく思った。現地の人々は、優しい人ばかりだった。すれ違おうと手を振ってくれ、車からも振ってくれて感動した。センター内はとても多国籍だったが共通点があり、それはとてもテンションが高く積極的に交流してくれたこと。私はとても気まづくなってしまう。外国人の自由な性格がその原因

かはわからないが、日本人が頑張ってもマネすることは難しいと感じた。



現地の高校生に英語で埼玉県をPRすることは難しかったが、「埼玉には海がないこと」「マスコットキャラクターはコバトン」だけは伝えることができた。

8人のメンバーは、スポーツの時、「やるだけ上手になるね」「次は出来る」などと前向きで、やる気の出るような言葉をかけていたのが印象的だった。ルール説明など、英語は理解できなかったが、みんなが教えてくれて嬉しかった。フリータイムの時は常に8人で遊んでいた。みんなという時間が楽しくて、寝たくなかった。みんなと仲良くなれたので、色々なチームビルディングも楽しめたのだと思った。私はハードな筋トレをしている時は、10秒の休憩が短く感じたが、それ以上にみんなと楽しく過ごした7日間の方が短かったと今は感じている。毎日一瞬で朝が来た。



機内の左右の窓で朝と夜、朝日で明るかったり真っ暗だったりして、地球って本当に不思議だなと思った。また食事の時、見た目と味の先入観を強く感じた。全てが初経験だった7日間はとても勉強になり、一生の宝物になった。